


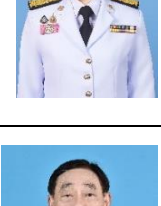


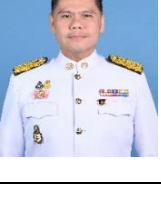
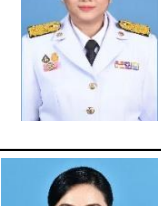







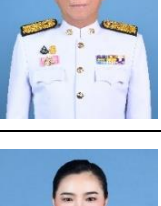



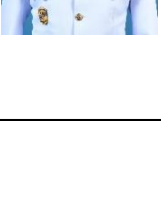




	Name	Title	back ground
	Miss Paetongtarn Shinawatra	首相	言わずと知れた、タクシン元首相の三番目の子供で未っ子。現在37歳 2006年の軍事クーデターが起こった時彼女はまだ20歳で家族の事業の一つであったホテル業に従事していた。 その後もホテル事業が自分の情熱を注ぐ場所と考えていたが、結婚、出産を経て、子供たちのために良い国を築きたいという思いから、 2023年政界に進出することを決めた。政治経験が浅かったため、選挙では党首ではなく、二番手として政党を支え、勝利に導いた。 2024年の8月セター首相の辞任に伴い、首相に就任した。 父親の影響が強く、今後の政治方針や主導にはタクシン首相の意思が多く反映されるだろうと考えられている。
	Mr. Phumtham Wechayachai	国防大臣 兼 副首相	第一次セター内閣の時に商務大臣を務めていた。 在任中には7つの労働政策を掲げ、経費削減や農家・地方起業家・中小企業のデジタル化推進、貿易拡大など収益機会の増加拡大に努めた。 セター首相解任後は首相代行も務め、新内閣で国防大臣に就任した。 チュラロンコン大学で政治学の修士を取得後、国防大学で国防コースを修了しており、過去にはシナワットグループでの勤務経験もあることから、タクシン氏からの信頼が厚い。
	Mr. Chousak Sirinil	首相府担当大臣	1989年～1994年までランカムヘン大学学長を務め、タイラックタイ党の顧問になったことから政治活動に参加。党の解散後は人民の力党で副幹事に任命され、首相秘書に就任。 その後政治活動失効期間などを経て、タイ貢献党で再当選した。
	Miss Jiraporn Sindhuprai	首相府担当大臣	現在37歳の若い世代の政治家で2019年、2023年の選挙ではともに地元ロイエット県の選挙区で最も多い投票数を獲得している。 ペートンタン首相は若い世代への政治関心を高める為に、ジラポン氏を党の副党首に任命。 一般の国民と同じような趣味や人となり、社会活動にも積極的な彼女のSNSでは若い世代から多くの支持を得ている
	Mr. Pichai Chunhavajira	財務大臣 兼 副首相	タイ銀行の委員会やタイ航空の事業再生委員会などに所属していた経歴を持つ。 セター内閣の時から財務大臣に任命され、BOIの顧問なども務めていた。 インラック元首相の裁判では汚職事件で重要な証人の一人として召喚されたが、ただの外部の会計専門家の一人と証言されたため事件とは関係ないことが証明された
	Mr. Maris Sangiampongsa	外務大臣	外務省で外交官として、オーストラリア、フィジー、ネパールカトマンドゥ、カナダ様々な国の大使を務めた。 官僚時代は外務大臣補佐官なども務めた。
	Mr. Sorawong Thienthong	観光スポーツ大臣	米国のジョンソン・アンド・ウェールズ大学で国際経営学の修士号を取得。 インラック政権で保健省副大臣を務めていた。その後2014年には情報通信技術大臣代理を任命されるなどした。 2019年の選挙では人民の力党から出馬したが落選。2023年はサケオ県でタイ貢献党の候補者として出馬し当選
	Mr. Varawut Silpa-archa	社会開発人間安全保障大臣	第21代首相バンハーン・シーラバアーチャーの息子 アメリカのウィスコンシン大学マディソン校で金融と銀行の修士号を取得。 2014年のソムチャイ政権時には運輸副大臣、2019年ブラユット政権時は天然資源環境大臣に任命されていた。 また、コロナウィルス対策管理センターのメンバーでもあった。
	Miss. Supamas Isarabhakdi	高等教育・科学・研究・イノベーション大臣	セター内閣の時にタイ誇り党の議員で唯一閣僚の座を獲得した唯一の女性議員 チュラロンコン大学のエンジニアリングマネジメントの工学修士を取得 PTT系列の子会社役員5年間勤め、政界に進出。 20年以上政治経験を積んでおり、前回に引き続き高騰教育科学研究イノベーション省の大臣を務める
	Mrs. Narumon Pinyosinwat	農業・協同組合大臣	チュラロンコン大学商学部で統計学の学士を習得後、米国ジョージア大学で理学修士、ペンシルベニア大学ウォルトンカレッジで博士号を取得 セター内閣では首相の顧問を務めていた
	Mr. Suriya Jungreangkit	運輸大臣 兼 副首相	2001年のタクシン政権の時にタイ愛国党に入党しその後書記長に就任。様々な省の大臣を経験している。 ブラユット政権時は工業大臣を務め、セター内閣では運輸大臣に就任、新しい内閣でも継続して務める。 彼がこれまでに生み出したタイ産業の発展と収益には政党を超えた強い信頼がある。 現在取り組んでいるバンコク市内の公共交通機関の整備、BTS乗車運賃20パーセント統一など、今後も活躍が期待される。
	Mr. Prasert Jantarauangtong	デジタル経済社会大臣 兼 副首相	ナコンラチャシーマー県議会議員として政界入り インラック政権時代は運輸副大臣を務めていた。全セター政権時代から引き続きデジタル経済社会大臣を務める。 タイ貢献党の書記長でもあり、過去にマネーロンダリング・薬物防止委員会の委員長を務めた経験もある。
	Mr. Chalermchai Sri-on	天然資源・環境大臣	1990年～2000年までの10年間ブラチュアップ県議会のメンバーとしてキャリアをスタートした。 その後国政に進出し、現在は民主党の党首を務めている。
	Mr. Pirapan Salirathavibhaga	エネルギー大臣 兼 副首相	タイ統一国家建設党の党首 長年裁判官として勤めていたが、1996年に政界入り アビシット政権時代は法務大臣、ブラユット政権時代は首相補佐官を務めていた。現在も首相候補の一人と呼ばれている。
	Mr. Pichai Nariaphan	商務大臣	チュラロンコン大学卒業後、不動産業界を経て政界入り、インラック政権時代には2011年エネルギー大臣に就任。 セター首相の補佐官を勤め、新政権で商務大臣に就任した。前商務大臣の政策を引き継ぎ、収益の拡大や市場に公正な価格の製品を提供していくために生産者のスキルアップなどを支援したり、デジタル化、輸出拡大を推進していく。
	Mr. Anutin Charnvirakul	内務大臣 兼 副首相	2019年から政界入りし、商務副大臣や公衆衛生大臣を務めた。 その後タイ愛国党の議員であったアヌティン氏は5年間議員資格停止となったが、2019年の選挙でタイ誇り党から出馬し、当選。ブラユット政権でも重要ポストに就く。 2023年の総選挙でも当選した。 セター首相解任後、首相候補となったうちの一人。
	Pol. Col. Tawee Sodsong	法務大臣	元警察官で特別捜査局の局長など重要ポストに就いていた。 2019年・2023年と国民党の候補者として出馬した。 法務大臣として、正義を促進するために弁護士会を支援する役割を全うすると職務に意欲を示している。
	Mr. Phiphat Ratchakitprakarn	労働大臣	元サトゥーン県知事。 ブラユット政権時代は観光スポーツ大臣を務めていた。 現在はタイ誇り党の副党首で、セター政権から継続して労働大臣に就任している。
	Miss Sudawan Wangsuphakitkosol	文化大臣	父親がブラユット政権時代に運輸大臣と商務大臣を務めていた。 彼女はセター元首相が選挙演説の際にバンガー権を訪れた際にハイシーズン中の観光ガイドラインなどについて自分の意見を述べたところ、 セター首相の目に留まり、はじめは観光スポーツ大臣に任命された。 その後、文化大臣として就任することとなった。
	Pol. Gen. Permpon Chidchob	文部大臣	ブームブーン中佐は1984年当時のサマック政権の時に監察官、アビシット政権時はバンコク入国管理局局長、インラック政権時は警察署長に格下げされた。 その後ブラユット政権時代に警察庁特別顧問として復帰、2021年に退官した。 2023年、セター内閣で文部大臣に任命され、そのまま続投することとなったが、2024年の1月に北朝鮮大使との教育問題について意見交換したことがネット上で批判的な意見が挙がっている。
	Mr. Somsak Thepsutin	保健大臣	ソムサク大臣が保健省に関わるのは今回で3回目となる。 1回目は1992年スッチンダー首相時代にわずか54日間副大臣として就任していた。 2回目は1997年チャワリット首相時代に、大臣として就任したが、首相辞任に伴う解散でわずか15日間の在任であった。 保健相以外にも、運輸副大臣、工業大臣、農業協同組合大臣、観光スポーツ大臣などを務めたこともある。
	Mr. Akanat Promphan	工業大臣	元副首相ステープ氏と血縁ではないが、義理の父親にあたる（実母が再婚） オックスフォード大学の学士・修士課程を卒業後、ステープ副首相の私設秘書として政治家のキャリアをスタートした。 その後2011年の選挙では最年少の25歳で当選し国会議員となった。 しかし、2013年インラック政権を打倒し、政治改革を行う「人民民主改革委員会（PDRC）」に参加するために議員を辞職した。 刑事裁判所はアッカナート氏を含むPDRCの指導者43名に対し違法な集会を行った反逆罪などの容疑で逮捕状を出したが、 控訴裁判で2024年6月に無罪を言い渡された。 2022年の時点で民主党からタイ団結国家建設党に移籍している。

赤字は新入閣またはタイトル移動